

5分で100km、スピード充電。

ダイヘンのEV用180kW超急速充電器 **D-Rusher** [ディー・ラッシャー]

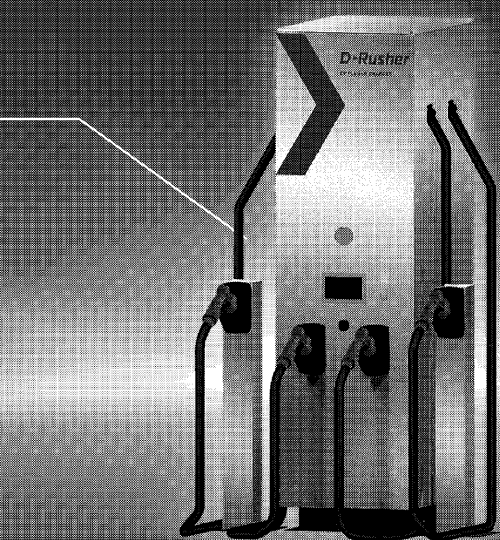
最大出力180kW※1
1台でも2台でも急速充電

【1台充電の場合】

充電5分で100km走行※2
180kW

【2台充電の場合】

充電10分で100km走行※2
各90kW



ダイヘンのEV充電システム
ラインアップ

普通充電器
(6kW)
壁掛け式・
スタンド式が
選択可。

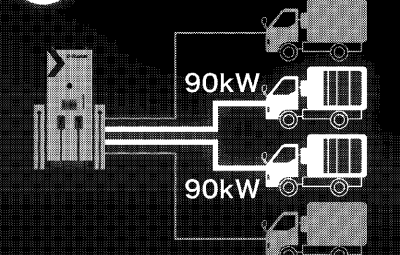
急速充電器
(30/50/120kW)
同時・連続充電で
充電の待ち時間
を軽減。

ワイヤレス
充電システム
“停めるだけ”充電で
利便性を
飛躍的に向上。

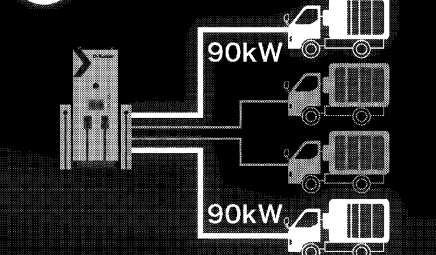
V2Xシステム
非常時にEVと
蓄電池から
長時間安定した
電力を供給。

ダイヘンの独自技術
4台連続充電

STEP 1 急ぎの2台を優先的に充電



STEP 2 充電完了後、つなぎ替えなしで
残りの2台を充電



※1...1プラグ定格90kWの充電電力を一定時間増大させるブースト出力
更に、高電圧(1000V級)に対応した400kWクラス機を開発中

※2...一般的なEVの航続距離・電費データから理論値として算出(当社調べ)



株式会社ダイヘン 充電システム事業部
TEL: 06-7167-6953

ダイヘンのEV充電システムに関する
詳細はこちらをご覧ください。



有力企業の製品・技術 順不同

次世代自動車充電インフラ技術

V2H導入に補助金活用

災害時に電力供給

EV、PHVが搭載する大容量の蓄電池は車両の動力源としてだけでなく、住宅やビルなどの電力供給源としても活用できる。V2H(ビークル・ツー・ホーム)、V2B(ビークル・ツー・ビルディング)は施設と車両の電力をトータルで運用するシステム。エネルギー供給源を分散化できることにも、住宅や施設の停電時には車両から電力供給を行ってリスクを低減する。また災害対応力の向上だけでなく、電力網のピークカットや平準化への貢献も期待できる。V2HによってEVの電力エネルギーを効率的に活用することが可能だ。

V2Hの普及を促進させるため、V2H充放電設備と外部給電器に対して導入促進補助金が設けられている。申請窓口は次世代自動車振興センターが担当する。24年度補正予算、25年度予算分については、7月25日に交付申請の受け付けが開始された。期間は9月30日まで。同補助金の事業の詳細は同センターホームページ(www.v2h.go.jp)をご覧ください。



ダイヘンのEV充電機器
(JCEA FAIR2025)
(www.v2h.go.jp)

菊水電子工業

菊水電子工業は昨年発売した「EV充電」放電システムコントローラーKEV1000シリーズで対応可能な充電規格のラインアップを拡充する。

KEV1000シリーズはMODE3やCHAdemoに加え、主に欧州で採用されているCCS規格と中国で採用されているGB/T規格に対応した急速充電が可能。同シリーズは急速充電時やV2H放電時にバッテリーのSOCを任意に設定できるため、試験終了時の再充電や出荷・輸送時に要求されるSOCの調整が可能だ。KEV1000シリーズを活用することで、一台で世界各国の主要充電規格に対応した評価試験ができる。

フクハラ

フクハラの「ドレンデストロイヤー CO2」は、コンプレッサードレンの清水化とCO2の回収が同時に処理できる装置だ。

無電源(一部機種を除く)の装置であり、特殊フィルターのみでドレン水の油分濃度を1mg/L以下(多数納入実績は1mg/L当たり1kg/L)に処理すると同時に、CO2を回収する能力を持つ(2024年度のCO2全回収量は約340kg)。

これらの油水分離およびCO2回収処理は効率的かつ経済的で、全国への納入・稼働実績も多数ある。

また、使用済みフィルター槽の焼却処分時に発生するCO2の一部に対してカーボンオフセットを適用済だ。

ダイヘン

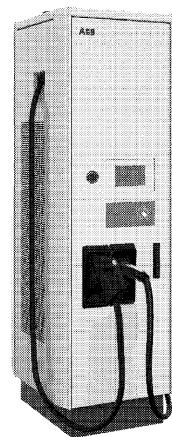
ダイヘンはEV充電システムの総合メーカーとして、プラグイン充電器からワイヤレス充電システムまで、さまざまな機器を提供している。中でも力を入れているのが超急速充電器「D-Rusher」だ。

最大180kWの高出力で充電時間を大幅に短縮するとともに、マルチプラグ機能により、つなぎ替え作業なしで最大4台のEVを連続充電できる。幅広い電圧帯をカバーするため、バッテリー電圧の異なる車種が混在しているにも、充電器1台で対応可能。さらにケーブル操作時の負担を軽減する「ケーブルマネジメント」もオプションとして追加した。利用者のさらなる利便性を追求し、開発を推進していく方針だ。

ニチコン

ニチコンは2010年からEV・PHV用急速充電器を開発、製造しており、24年度の公共用急速充電器の設置台数はトップシェア(同社調べ)を誇る。年内に発売予定の商用EV向け急速充電器「サイクリックマルチ充電器」は、複数台のEVを使用する運輸事業者がターゲット。1口当たり最大90kWの高出力で、最大6台の繰り返し充電が可能。充電電力は一定の上限内に抑える。

充電電力ピークの発生を抑えられるため、電気料金の削減が期待できる。セパレート構造とスリムなディスプレイの採用により、限られたスペースにも設置できる。パソコンやスマートフォンを用いた遠隔での充電管理も容易に行える。



CHAdemoとNACSの両規格に対応 新モデル Terra 184 JN

- 1台で2つの規格の充電が可能に
- 従量課金対応
- 第7回 脱炭素経営 EXPO【秋】に実機展示

ABB

ENGINEERED
TO OUTRUN

ご提案します

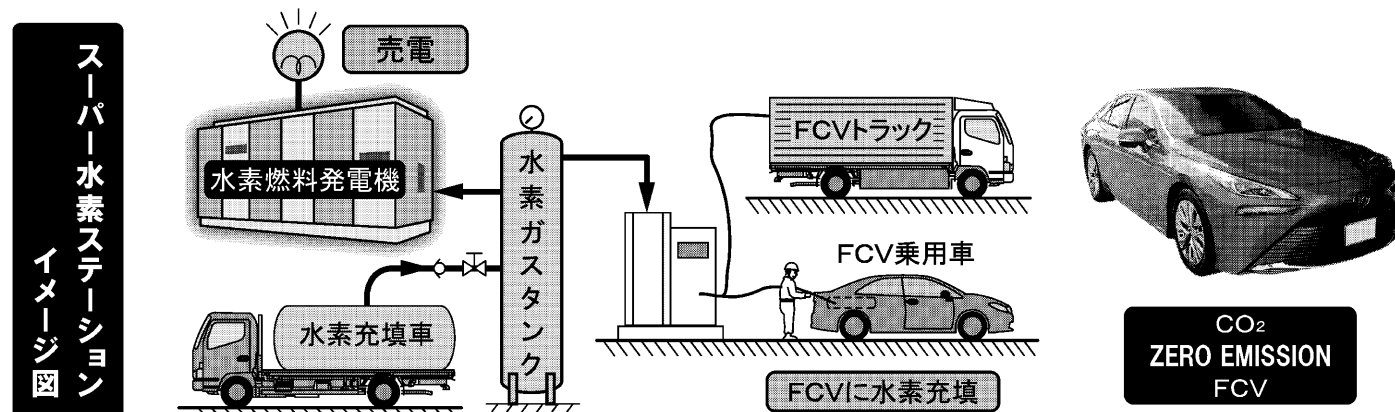
政府・官公庁関係・エネルギー製造会社および関係各位殿、今すぐに立ち上げてみませんか？

スーパー水素ステーション

Super Hydrogen Station (呼称 SHS)

移送されてきた高コストの水素は、主に水素燃料発電機で電力化し、売電。大量消費して水素の価格を下げる努力。その間は補助金で賄う。低コストの水素になれば、SHSにも利益が出て、SHSの出店が増える。性能が素晴らしいFCVが爆発的に増加して、日本は豊かな国になるはずだ。

化石燃料を使用している火力発電所は、排出されるCO2を100%回収し有効利用。水素は火力発電所の燃料として使用しないことです。水素は他にも活用する箇所が多数あります。



この提案広告に関するお問い合わせはメールにてお願いします。送り先: 情報管理係 清野 E-mail: kiyono@fukuhara-net.co.jp

神奈川県優良工場認定
横浜知財みらい企業認定

株式会社フクハラ
検索サイトからは「フクハラ ドレン」検索

油水分離とCO2回収が同時にできる 画期的なドレン処理装置です

エアコンプレッサー専用ドレン油水分離・CO2回収装置 日本・欧州 特許取得済/米国・中国 特許出願中

ドレンデストロイヤーCO2

- 処理水の油分濃度 3mg/L以下 納入実績 1~2mg/L
- ドレン処理コスト削減 75kWコンプレッサーの場合 年間 約67.3万円の削減
- ドレン中に存在しているCO2をコストなしで回収
※2024年度のCO2全回収量は約340kg
- 使用済みフィルター槽の焼却処分時に発生するCO2の一部に対してカーボンオフセットを適用済

科学技術庁長官賞
受賞商品

大幅な省エネと
CO2回収



全19機種 適用コンプレッサー 7.5~1,100kW 油水分離とCO2回収が可能です。詳細は「フクハラ デストロイヤー」検索

掲載の製品は、コンプレッサー商・機械工具商・管材商から購入ができます。

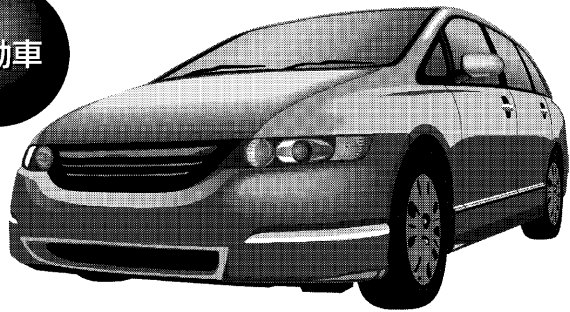
〒246-0025 横浜市瀬谷区阿久和西1-15-5
TEL: 045 (363) 7373 FAX: 045 (363) 6275

URL : www.fukuhara-net.co.jp/
E-mail : eigyo@fukuhara-net.co.jp



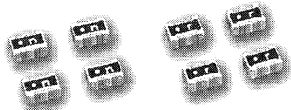
双信電機のカーエレクトロニクス部品

自動車



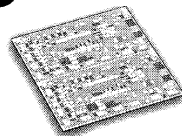
通信用セラミックフィルタ

車車間通信をはじめ、
車載ネットワーク通信
に対応致します。



厚膜印刷基板

高信頼性、高耐熱性です。
各種ECU、車載照明、
センサー用など

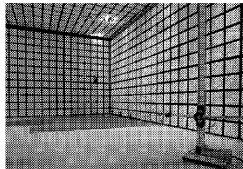


フィルムコンデンサ

平滑用、スナバ用、ノイズ除去用など
カスタム対応致します。



浅間テストラボ



VLAC、TÜVライン
ランド、VCCIなど
各種認定ラボ

オンサイト測定

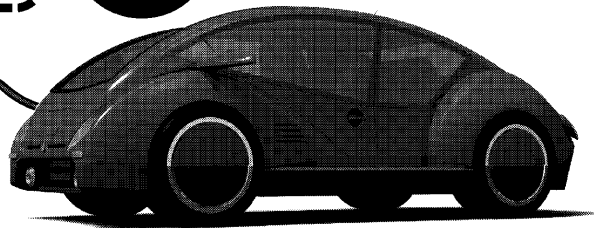


ノイズ診断車で全国
どこへでも伺います。

急速
充電器

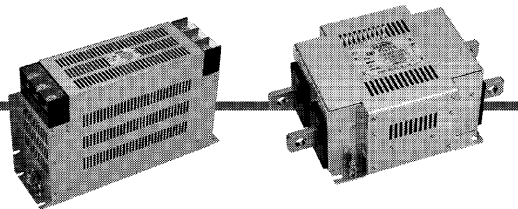


EV車



ノイズフィルタ

AC/DC電源対応 小型・高減衰



SOSHIN

双信電機株式会社

東京本社 〒105-0004 東京都港区新橋5-1-9 銀泉新橋第2ビル6F
https://www.soshin.co.jp Tel.(03)5730-8001 Fax.(03)5730-8009

次世代自動車充電インフラ技術

東光高岳

東光高岳はCHAdeMO規格では世界初となる一口最大出力350キロワット、総出力400キロワットの次世代超急速充電器「SERAA-400」をe-Mobility Power（イーモビリティパワー）と共同開発し、この秋にも発売予定だ。わずか10分で約400キロワット相当の充電能力に加え、新たに開発した新型充電コネクタと充電ケーブルで軽量化、細径化を図り、高い操作性を実現する。

さらに、存在感ある未来的な外形とユーザーの使いやすさを両立させたインダストリアルデザイナーによるスタイリッシュなデザインも特徴だ。

同社は今後もあらゆる車種のEVユーザーに最高の充電体験を届けていく。

A B B

ABBは急速充電器の国内ベストセラーである「Terra184」の新モデルとして、CHAdeMOと北米充電規格「NACS」の両規格に対応する「Terra184NJ」を発表した。

普及が進むEVの充電規格2種に1台で対応できる。車両1台ではCHAdeMOが最大150キロワット、NACSが最大180キロワットで充電、車両2台では最大90キロワットの同時充電が可能。年内に受注を開始し、納品は2026年を予定している。グローバルでの販売経験を生かし、日本国内での持続可能な充電インフラの整備の実現に向けて貢献していく。

同製品は9月17日から幕張メッセで開催する「脱炭素経営EXPO」で初披露される。

双信電機

パワーエレクトロニクス分野での豊富な経験と実績を持つ双信電機は、急速充電器のEMC対策用ノイズフィルターの開発を行っている。

DC専用の「NF2000C-EQA」は定格電圧500VDCで40〜400ワットまでリリース化し、最大出力400ワットでも使用が可能。独自のコイル設計技術で小型・軽量化を実現し、急速充電規格「CHAdeMO」に対応。今年8月に発売する。

また、長野県佐久市の大型電波暗室とオンサイト（出張）試験によるEMC対策支援でも高い信頼を得ている。加えて、ワイヤレス給電分野でも市場から求められるフィルムコンデンサなどの各種部品を提案している。

堀内電気

総合電気設備工事事業の堀内電気は、太陽光発電設備や大型蓄電池などに関する事業を手がける。そのほか、EV用充電スタンドの提案にも積極的だ。EVと建物の間で電力を相互供給するV2HやV2Bの提案では、企業や自治体の事業継続も支援し、太陽光発電と組み合わせる普及を後押しする。

10月6日に福岡県大野城市で開催されるEV展示・試乗イベントに参加予定。EVの理解促進、導入検討をサポートする。国内外のEVが展示される中、同社はEV用充電スタンド工事に関する相談に応じる。

今後はEV運行管理システムなどの提案も検討しつつ、EVや充電スタンドの普及に貢献する。